なきごえ

〝ツシマヤマネコ特集号〟

1966

10

大阪市
天王寺動物園

ツシマヤマネコ

ツシマヤマネコはベンガルヤマネコ Felis bengalensis の亜種で、長崎県対馬にだけしかいない。同類のベンガルヤマネコは東アジア一帯に住んでいて、中国では「山狸子」(北部)とか「石虎」(南部)とか呼ばれている。ふつうのネコよりも大きく、ヒョウに似た斑点をもつ、完全な野生獣である。

私たち、大阪市立大学探検部では、日本に残された数少ない野生獣のなかでも、このマヤネコの生活がまったく知られていない点に興味をもち、二年ほど前からグループをつくって調査をはじめた。

日本で絶滅した、あるいは絶滅しかけている動物は、たいてい、昔はたくさんいたのに、開発が進んで生活の場所を奪われてしまったものが多い。しかし、ヤマネコは以前から対馬にだけしかいない動物なのである。化石としては栃木県葛生から約1～2万年前のものが発掘されている。葛生といえば洪積世の旧石器時代人の化石で有名なところであり、同じく旧石器時代人の化石が見つかった。静岡県三ケ日でも最近ヤマネコらしい化石が発掘されたそうである。しかし、沖積世になるとヤマネコは本土からまったく姿を消してしまった。とすると、洪積世末期、オオツノシカなどを追って、旧石器時代人が大陸から日本へやってきたころ、ヤマネコも自由に入りこんでいたが、日本が島となった時期に絶滅したらしい。しかし、そのとき対馬はまだどこかとつながっていたのではなかろうか。この謎はツシマヤマネコがどこのヤマネコに似ているかを調べるとわかるかもしれない。ところがツシマヤマネコの標本は東京に1個、対馬に3個、分類の基準となる頭骨は東京に1個あるだけで、飼育している所はどこにもなかった。保護といえば、狩猟獣から外されているだけで現在数の推定すら不可能というのが実状であった。

昨年8月、イリオモテヤマネコの調査団が成果をあげずに東京へ帰ったという話を後に

して、5名の第一次調査隊が対馬へ渡島、全島を歩いて聞き込みを行なった。その結果によって、今年3月第二次調査隊7名が主な3ケ所にわかれて、標本(毛皮、頭骨など)の収集、測定と糞・足跡の調査などを実施、さらに捕獲を計画したがこれは失敗に終った。そして8月、第三次隊(10名と同行4名)がさらに詳細な生態調査と捕獲に渡島した。

8月5日、北端の上県町の西海岸、佐護友谷部落にいた隊員が、さらに南の志多留で数日前野犬に殺されたヤマネコがあるのを聞き込んだ。近くに来ていた他の隊員と合流して、志多留部落へ行き、畑に捨ててあった全身骨格を入手し、さらに志多留附近の調査を始めた。そして、地元の人たちの協力を得て、10日にワナをかけることになった。

11日朝、5時半、約束よりも半時間早く、地元対馬高校の大江正康君が誘いに来る。隊に同行していた千足さん(武庫川女子大)と先に出てもらい、ともかくも写真機などを用意してすこしおくれて見廻りに出た。部落をはなれてしばらく行くと大江君バンザイをしながら、踊りながら、走って帰ってくる。「捕れたゾ、捕れたゾ」……。

部落の人たちに手伝ってもらって、ようやく箱づめにしたこのヤマネコは、生後2ケ月から3ケ月のメス、帰阪途中、福岡動物園に寄ってマウス1頭を差し入れてもらい、天王寺動物園へ到着したのは、14日のひる前だった。

志多留では、さらに16日朝にほぼ同じ大きさのメスが捕獲されたが、まもなく現地で死亡、残念だがしかたがない。今後、生長と繁殖の問題——これは保護対策に直接つながる——を解決するために、さらにオスの捕獲を計画している。生態もオボロゲながら、いくつかの点がわかってきている。第四次、第五次と調査を重ね、各方面から寄せられた期待と御援助にこたえたいと考えている。

(朝日　稔)
第三次調査隊隊長

「ツシマヤマネコ」の飼育と観察

すでに滅亡したと思われた「ツシマヤマネコ」を偶然てがけるようになり、その飼育管理及び習性の一端にふれましたので、ここにご紹介します。

入手の経路

大阪市大探検部は「ツシマヤマネコ」の生息の有無を捜らんと、昨年8月と今年の3月に部員を対馬列島に派遣し、その生息はほぼ確認し得たのですが、捕獲には成功しませんでした。しかし8月に入り、三度び現地の調査に当り遂に8月10日夜、志多留に於て仕掛けたトラバサミにかかり、8月11日早朝その捕獲に成功。8月14日昼頃朝日隊長ほか3名の部員によって、当園に運び込まれたものです。

簡単な輸送箱(木製48c×18c×17c)から出された「ヤマネコ」は推定3ケ月(現地での繁殖は5月頃とされています)のメスで、体重5～600グラムで家猫の発育振りと大差はないように思われました。

空腹のためか意外な程おとなしく、それでも与えられたマウス3頭にすぐに飛びつき、餌付けの心配は全くなく我々を安心させました。

小獣用の一時収容箱(木製68c×60c×50c)に輸送箱と一緒に入れ、安静と観察のため展示するのを止めて、一時収容所で飼育することにしました。

最初の2～3日は、輸送箱から全く出ようとせず、ただ給餌の際にのみ出るぐらいで、一日中箱の内でうずくまったままの状態でした。

我々が近づくと、時々「フッ、フー」と吹くだけで、想像以上に落ちついた「ヤマネコ」で、これは年令からくるものではないかと思われます。

又、捕獲時の受傷を心配しましたが、幸い発見が早かったためか、トラバサミにはさまれた右前肢を、負重時にやや挙げる程度で治療を必要としませんでした。

形態について

家猫に較べて、①毛が荒くて硬く不正な斑点がある　②両眼の内側にタテに白条がある　ことなどによって自らその差異があり、「ヤマネコ」の特徴が判然としています。(詳細はグラフ参照)

エサについて

入園時は、生き餌として1日3～5頭のマウスを与えていましたが、逐次馬肉、鯨肉、牛肉ミンチ、ヒヨコ等に切替えました。食欲は極めて旺盛で与えるとすぐに何んにでも飛びついて食べました。

又、犬用の飯を与えましたが、これも採食しました。

以上の餌を朝夕の2回に分けて与えました。

習性について

夜行性のため、日中はほとんど輸送箱の上で静止し、採食時のみ出て来てこれを食べました。

午後7時頃から活動が活発となり、室内を歩き廻り一隅に置かれた砂地の部分で、盛んに体をこすりつけて遊ぶ状態が見られました。

又、気嫌の良い時は上を向いて「フッーフッー」と云いながら、頭を左右にゆっくり動かす様子も見られました。

入園以来約1カ月という短期間のため、今後共なお詳細な観察を続けていかなければなりませんが、当面腸内寄生虫及び虫卵を検出していますので、この寄生虫の同定と駆虫を実施したいと思っています。

又、幸い第4次探検隊が派遣されるやに聞いていますので、オスを得て将来は、その繁殖に成功し、世界中で唯一の飼育動物であるこの動物の増殖を夢見ている次第です。

(中川道朗)

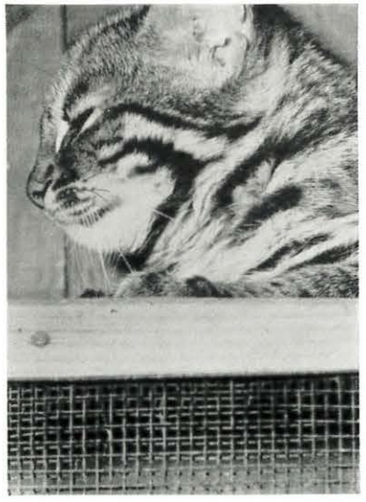
動物園グラフ

ヤマネコの表情を集めてみました。

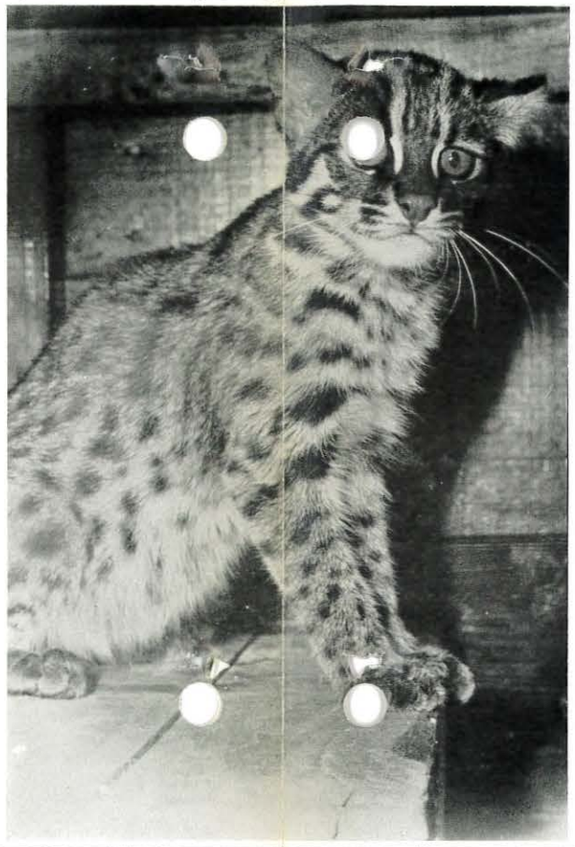
↑ 好物のアジをパクリ!!

↑ 食後のお化粧。女ですもの

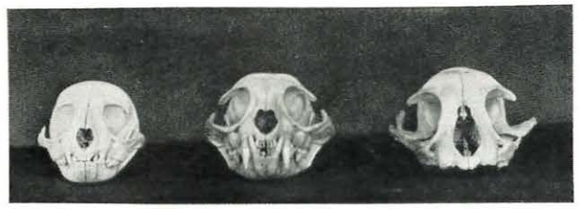
↓ お腹一杯で満足そう



↓ すましたよそ行きの顔です

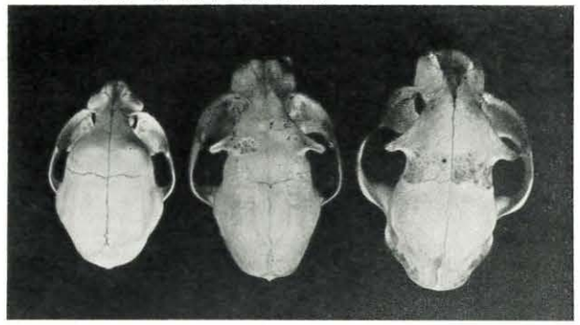


前から見た頭蓋骨　ネコより面長でスマート



ヤマネコ（幼獣）ヤマネコ（やゝ成獣）　イエネコ（成獣）

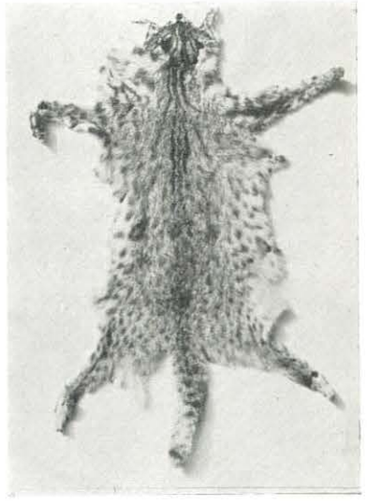
上から見た頭蓋骨



ヤマネコ（幼獣）　ヤマネコ（やゝ成獣）　イエネコ（成獣）

↓ 寄らばかむぞ!!とおこっています

毛　　皮
頭　胴　66センチ
尾　　22センチ
普通のネコより大きい



9月　動物園日記

1. かもしか放飼園にくじゃくも放し飼いにして入園者の方々に喜んでいただこうと、今年人工ふ化したくじゃくのひな8羽を、試験的に放し飼いにしました。
3. インドくろかもしかの赤ちゃんが生まれました。
元気に育っています。
4. アグーチや、たいわんざるが動物交換として出園しました。
5. 昨年にひきつづいて、今年もピューマの赤ちゃん2頭が生まれました。
おおづるが、2コの卵を生みましたが、初卵を電気ふ卵機に入れることにしました。
7. 飼育記録をつくっていた、あかしょうびんが残念なことに死にました。
8. ぶちハイエナ夫婦は、けんかをしてなかなか一緒にならないので、1頭を別の檻に分けて展示することにしました。
9. つしまやまねこは、入園後26日目ですが体重を計ったところ1,220g で入園時のほぼ2倍も増えていました。
11. はりねずみの母親が、かぜをひいてすっかり元気がなくなってしまいましたので、治療しています。
13. つしまやまねこの糞便検査をしましたら、たくさん虫卵をみつけましたので、さっ速駆虫薬を飲ませました。
15. しまうまが、糞が出にくくお腹痛を起しましたが治療の結果2～3日後に治りました。
17. 気温が急に10°C も下りましたので、熱帯動物たちの防寒準備にてんてこまいでした。
18. 治療中のはりねずみは、とうとう死にました。やはり肺炎を起していました。
今年生れた、はなしかの仔は急にお腹にガスがたまり、治療のかいなく死にました。
19. フンボルトペンギン1羽が出血性十二指腸炎のため死にました。
20. インドひょうのめすのお腹に、腫れものができたので、全身麻酔して手術を行ないました。
動物愛護週間を迎えて、チンパンジー2頭に演技用靴の贈りものが町の動物愛護家より届けられました。
21. 鶏痘にかかりやすいにじきじ3羽などに、ワクチンの予防接種をしました。
22. 〝動物をかわいがりましょう〟とPRをかねて市内幼稚園児たちが、動物たちにどっさりごちそうを持って訪れました。さっ速、さいやうまさんに、にんじんやさつまいもをごちそうしました。
ピューマの赤ちゃん2匹の計量を行いました。おすは 1.2Kgめすは 1.0Kgでした。
23. 家畜動物総合感謝祭が、動物慰霊碑の前で行なわれ動物たちを代表して、チンパンジーのキャンデイちやんが玉串をささげました。
又動物愛護者や、動物愛護図画入選者の表彰式も行なわれました。
24. くもざるの赤ちゃんが生まれましたが、母親の衰弱が著しいので、別室に入れて栄養剤などを注射しています。
25. きのぼりカンガルーのルーちゃん（♀）は急に食欲がなくなり弱ってきていますので、薬を与えています。
26. きりんの仔が左足の関節に腫れものができて、元気がなくなりましたので治療しています。
30. おおさいちょう1羽が入園しました。

ヤマネコの見学

△9月10日「生き物趣味の会」の見学会あり出席する。そこに山があるので登山家ががんばるように生きているツシマヤマネコを目の当り見て本当に私たちは興味をもつ。

△ダーウインでさえネコの起原を究(きわ)めることは無謀だとさじを投げた由。アフリカのヤマネコが古代エジプトの飼猫にそれが全世界に広がったものと一応考えられている。そこで現存するアフリカ産ヤマネコの写真を見るとツシマヤマネコと実によく似ている。

△学者はこまかく比較して日本の飼猫とは関係ないというが長い系統の歴史をさか上って考えるとどうして大関係がある筈である。私たちはたまたまピューマの生後5日目のこどもを見せてもらったが帰宅してピューマのこどもの写真を調べるとこれ又ツシマヤマネコの模様と大変よく似ているので驚いた。大猫と小猫の差で進化の歴史を物語る貴重な資料でよい写真を撮っておいてほしいと思う。

△私は席上で朝鮮海峡線より対馬海峡線の方に哺乳類の境界線をずらした方がよいと提言しておいたがヤマネコ以外のものについても調査してほしい。

△又楽屋裏(がくやうら)の話でチョウセンヤマネコの獲物がある由。又とないチャンスに是非比較しておくことは最も望ましい事と念願している。1964年北鮮発行の郵便切手にもあり、詳細な記載があれば学問上大変有益である。

△更にとんで旧北満産のヤマネコと比較してみたら、而して三者の変異が解明できたらツシマヤマネコが孤島でどんな変化をしたかが、はっきりしくるので素晴らしい。ツシマヤマネコの分布的価値に期待し健在を祈っている。

△ヤマネコの解説書がないので不明な点が多いと云われているが見学会から帰っておかげで思出し探してみたら珍本が出てきた。

昭和14年版興亜書院発行の南満洲鉄道株式会社北満経済調査所編「北満野生哺乳類誌」で54種の野生哺乳類を解説ヤマネコの記事は10ページにわたり記載してある。ヤマネコの見方がこれでどうやら解る。動物園の人に提供して観察してもらったら何よりと思っている。

△終りに私は趣味家で涅槃(ねはん)図の猫を調べたことがあり、東福寺のには斑猫が、浄土院のには虎猫が出ていて、又獣鳥戯画にも虎猫で、その侍も虎猫の原始型を考えていたが現在の虎猫にもツシマヤマネコとの共通点が多々あり興味深い。

（おもちやの動物園にて
吉田平七郎記）

表紙の写真「ツシマヤマネコ」

世界中で唯一頭の飼育動物です。

長崎県対馬で捕獲
生後4ケ月（推定）のメス

なきごえ　10月号もくじ

ツシマヤマネコ……2
ツシマヤマネコの飼育と観察……3
動物園グラフ……4.5
ヤマネコの見学……6
動物園ニュース……7

動物園ニュース

★ピューマの赤ちゃんお目見得

昨年8月の3頭の出産に続き、今年も2頭のピューマの赤ちやんが9月5日に産まれ10月7日から一般客にお目見得しました。

ピューマの出産は全国でも珍らしいのに、39年5月に中央アフリカからやってきて昨年、今年と連続殊勲の〝ピューマ夫婦〟に係員も鼻高々、母親ピューマに総合ビタミンや肉などたくさん与えており、生まれた時は400グラムだった赤ちやんピューマの体重も1ケ月後には、約倍の700グラムというすこやかな成育ぶり、今ではおかあさんピューマの背中にのぼったりシッポにジヤレたり、兄弟ゲンカをするなどのヤンチャ盛り。

ピューマは一名アメリカライオンともいわれ南北アメリカに分布します。

森林や草原に孤独で生活し、夜行性で昼間は林の中に潜み夜間に活動する。

赤ちやんのときのヒョウのような黒いハン点は約半年位で消えます。

ピューマは日本では数少く成獣の価格は約35万円。

★クロカモシカ　オメデタ

昨年11月に完成した当園ご自慢のカモシカ放飼園の2組のクロカモシカ夫婦にオメデタが続きました。9月3日にまず1組に10日にもう1組にオメデタ。

同居のエランド、オリックスなどカモシカ仲間の夫婦でオメデタ第1号というわけです。親子とも丸々ふとり、カモシカ園の広い運動場を2組のクロカモシカ家族が連れだって歩く姿に人気が集まっています。

★おーづる産卵

9月1日と4日に各1個づつ産卵しました。

おーづるの産卵は戦後始めてで係員一同大喜びですがチョット時期はずれ（普通7〜8月頃）のため「ふ化」は危ぶまれています。が念のため、1個は電気ふ卵機に入れ、1個はオス、メス交互に抱かせています。

おーづるは、つるの仲間の内、一番大きく、インド、マレー半島の辺にすんでいる全身灰色で首の一部と頭が赤い美しいつるです。

上手くいけば、10月上旬には赤ちゃん誕生の予定です。

入園の御案内

★ 開園時間
3月〜10月　午前9時〜午後5時
11月〜2月　午前9時〜午後4時30分
◇ 閉園30分前で入園券の発売を終ります。
◇ 12月30・31日のほかは年中無休です。

★ 入園料

普通	大人（13才以上）		60円		
	小人（5才〜12才）		20円		
団体	30人以上	大人	54円	小人	18円
	50人以上	大人	48円	小人	16円
	100人以上	大人	42円	小人	14円

◇ 中学生は小人料金扱
◇ 5才未満は無料（但し保護者付添のこと）

★ 駐車場使用料
バス　1台1回　200円
乗用車　1台1回　100円
（但し2時間までごとに）

★ 交通
市バス　動物園前下車（南門正面）
地下鉄　動物園前下車徒歩2分
国鉄　天王寺駅下車公園内徒歩10分
近鉄　阿倍野橋駅下車　〃
南海　恵美須町駅下車徒歩5分

なきごえ　昭和41年10月15日発行（毎月１回15日発行）第２巻第10号（通巻18号）
編集人／和田辰巳　発行所／大阪市天王寺動物園協力会　大阪市天王寺区玉水町２電話大阪771-8401
定価　４０円